

プロポーザルの評価区分、評価項目及びそのウェイト、評価基準

- 1 各項目の採点は5段階の絶対評価とする。評価点数に配分を乗じて採点を行う。重要な項目については配分を大きくしている。
- 2 評価は次のとおり。良い:5点 やや良い:4点 普通:3点 やや悪い:2点 悪い:1点
- 3 満点は100点満点×5名=500点とする。
- 4 各委員の、配点合計についての平均点が60点未満となる提案団体については、受託者として特定しない。

評価項目	評価の視点	評価	配分	配点	得点
事業目的の理解度 (業務目的が十分に理解されていること)	業務目的を十分に理解し、仕様書・要領に沿った提案となっている。		× 2	10	0
企画提案の内容 (具体性が十分であること)	■基本情報及び課題の把握・整理・検討 基本情報や課題の把握・整理を行う上で、調査方法、判断方法が具体的に示されているか。【仕様書6(1)、(5)】		× 4	20	0
	■対象施設の劣化調査等 劣化調査等を行う上で、調査方法、判断方法が具体的に示されているか。【仕様書6(2)、(3)、(4)】		× 4	20	0
	■諸室・機能の利用状況の実態把握 諸室・機能の利用状況の実態把握を行う上で、調査方法、判断方法が具体的に示されているか。【仕様書6(6)】		× 4	20	0
企画提案の内容 (独創性・実効性があること)	提案者の専門的知識・技術を活かした創意・工夫のある提案内容となっており、提案の取組内容に実効性がある。		× 3	15	0
事業実施体制 (本委託が無理なく、確実に実施されること)	事業の実施スケジュールや計画に無理がない。		× 1	5	0
	事業実施に必要なスタッフ体制が確保されている。		× 1	5	0
事業費 (事業費総額が少ないこと)	(最も安価な提案者の参考見積額÷提案者の参考見積額)×5 ※得点は小数点2位以下を切り捨てる。		× 1	5	0
合計得点				100	0